

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

(平成7年7.11水害) 平成7 (1995) 年7月11日から12日にかけての梅雨前線による大雨

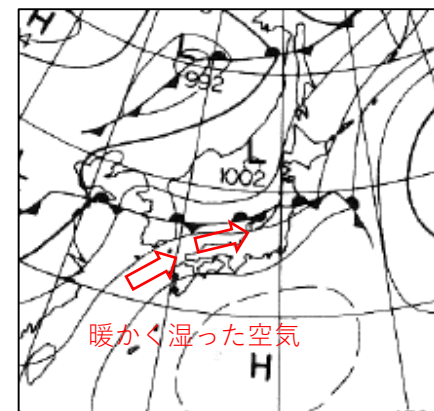
梅雨前線の活動が活発化 姫川及び関川流域を中心に甚大な被害

【概要】

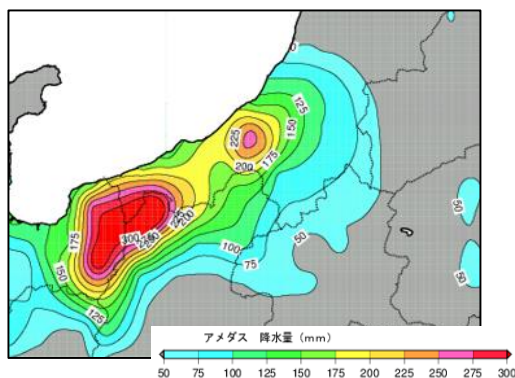
平成7 (1995) 年7月11日から12日にかけて、北陸地方には暖かく湿った空気が流れ込み梅雨前線の活動が活発となった。長野県北部から新潟県上越地方を中心に、所によっては1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が断続的に降った。24時間降水量は、姫川上流の長野県の小谷で357ミリ (12日13時まで)、新潟県内では、上越市川谷で262ミリ (12日14時まで)、上越市安塚で240ミリ (12日12日まで)、十日町市松代で225ミリ (12日14時まで) を観測し、それぞれ当時の1位を更新した (糸魚川市平岩の雨量は水害のため欠測)。

この大雨により、新潟県上越及び長野県北部では、姫川、関川の氾濫、鉄橋流失、土砂崩れなどにより鉄道の不通、家屋の浸水など、姫川及び関川流域を中心に甚大な被害が発生した。

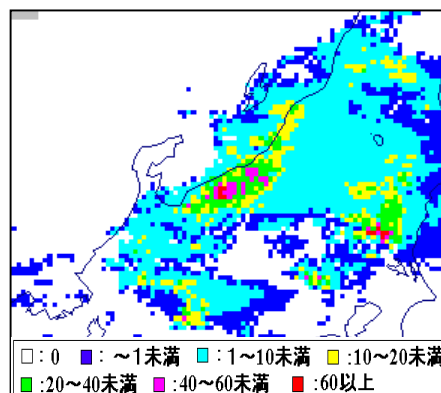
(被害出典：災害をもたらした気象事例 (気象庁)、平成7年7.11水害 (新潟県土木部))



地上天気図
平成7年7月11日9時



平成7年7月12日12時までの
24時間降水量



平成7年7月11日18時の前1時間降水量
(レーダー・アメダス解析雨量)

